

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成30年度)

2. 分野別状況 (2)地域活性化総合特区 ③アジア拠点化・国際物流分野(1/4)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
さがみロボット産業特区 (神奈川県)	4.5	4.7 進捗度 ・生活支援ロボットを体験する取組に参加した人数 757% ・生活支援ロボットの導入施設数 208% ・実証実験等の実施件数 143% 等	4.1 規制の特例等 ・医療機器製造販売承認等の手続の円滑化(薬事法) 財政支援等 ・高度先端型技術実装促進事業 地域独自の取組 ・「セレクト神奈川100」等による企業誘致の促進 等	4.5	<p>・全体としてほぼ目標を上回る成果が得られていること、目標数値の設定から取組の理由、結果に至るまで明確に示されていることが高く評価できる。</p> <p>・知識集約産業の典型であるロボット産業には集積が重要であり、集積にはある一定期間内においてクリティカルマスに達する必要があるため、今の勢いを加速させて一大集積地となることが期待される。</p> <p>・生活支援ロボットの導入や「かながわロボタウンキックオフイベント」などの県民のイベント参加の実績が目標を大きく上回っていることは高く評価できるが、このようなイベントの有無によって、数値が大幅に変動する可能性があるため持続的に成果につながるものになるよう期待したい。</p> <p>・一見すると十分すぎる結果を出しているように見える。しかし、たとえば評価指標(6)「生活支援ロボットを体験する取組に参加した人数」などは本来の効果として勘案するもののみ見ているのか、他の効果によるものとの分離ができていないのか、気になる。</p> <p>・ロボット関連企業の誘致については、引き続き首都圏の近隣の集積地との競合が大きな課題であり、土地確保と、中小企業への情報発信・コーディネーションの必要性が指摘されているが、集積地間の競争にはいかに先行できるか(時間的優位性)も重要なポイントになるので、上記の課題を早急にクリアする必要がある。</p>